

# 美術科授業案

日 時 平成28年5月13日(金) 3・4校時  
生徒 2年B組 男子13名 女子21名 計34名  
授業場 美術室  
授業者 更科 結希

---

## 1 題材名 「日本の美から見えてくる私たちの暮らし」(鑑賞)

### 2 題材の目標

鑑賞作品から、形や色彩などの特徴や印象を感じ取ることを通して、日本の美術には四季を重んじた表現や鑑賞者の視点を考慮した工夫などの特徴について指摘することができる。

また、日本の暮らしと美術文化の結びつきを追求することを通して、掛軸の形態や構図の特徴について、互いの考えや感じ方を共有し、暮らしの中で美術作品が担ってきた役割を考えることができる。

### 3 題材について

#### (1) 題材観

美術科における今後重点をおき育成すべき資質能力として、論点整理では造形的な創造活動の基礎能力としての「思考・判断・表現」の育成などが述べられている。特に、感性や想像力を豊かに働かせて、思考・判断して表現したり鑑賞したりするなど、資質能力を相互に関連させながら育成することや、生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深める等については更なる充実が求められている。表現・鑑賞分野が個別に存在するのではなく、育成すべき資質能力との関連を考え、主体的で創造的な学習活動が必要とされている。これまで、表現・鑑賞を一体化した創造的な学習活動に取り組んできたが、本題材では鑑賞分野に視点をおいた。その理由として、創造的な表現をするためには、作者がどのような意図を持ち表現してきたかについて、造形要素を基に読み解き、観る能力が必要となる。こうした能力の育成のためには、鑑賞活動が有効であると判断したためである。

指導要領における鑑賞活動のねらいとしては、自然や身近な環境の中に見られる様々な造形に視点をあて、そのよさや美しさなどを感じ取り、生活を美しく心豊かにする美術の働きについての理解を深めることをねらいとしている。鑑賞において、より実質的な理解を深めるためには、生徒個人の感じ方から共有できる価値を見いだしていくことが必要であると考えられる。

本題材は、釧路市立美術館所蔵の地元出身である久本春雄が描いた掛軸「初夏」と「桃花」を用い鑑賞する。日本の伝統的な美術の形態として掛軸は、日本人の暮らしに密着し季節ごとに掛け替え、人々が楽しんできたものである。こうした作品が生まれた背景である日本の暮らしとの結びつきについて考えることで、美術作品の人々に与えてきた影響やよさについて理解を深めることに繋がるだろうと考えた。

#### (2) 生徒観 生徒観は省略

### (3) 指導観

本題材では、実物の作品の持つ「大きさ」や「素材感」を含めた鑑賞を行うため、釧路市立美術館より実物を借用して実施する。掛け軸を展示するための所作や床に座った状態で鑑賞できる場所の設定についても、本題材において重要な鑑賞の視点となる。

また、日本の美の一つの特長である「余白」に着目し授業を展開させていく。これまでの学習でも幾度となく余白についての存在について触れてきているが、それがどのように美しさに結びついているかの実感には至っていない。

また、生徒の個人的な見方から、一般化した価値に結びつけるために、協働の場を設定し鑑賞作品から抽出する造形要素について意見を交流し合い、生活を美しく豊にする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解に繋げていく過程を具体的に示す必要があると考える。

#### 【研究の視点】

##### 「やるべきことの納得」に関わる手立て（授業構成）A

題材設定において、生徒の生活や今後の考えを培うために必要であると判断する題材を設定し構成していく。生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解のため、掛け軸のある空間＝「場」に生徒が身をおき鑑賞する授業構成とした。また、鑑賞を自分の内面に価値を生み出す表現活動として位置づけ考えていくこととする。

##### 「思考力を促す」に関わる手立てB

本授業において、日本美術の「余白＝間」の在り方について考える学習過程で、生徒が余白に当てはめたい情景を想起し、ワークシートに実際に描く場面を組み入れることを手だてとする。これは、想起するだけでなく、実際に描くことでより掛軸の余白の在り方について実感する場面となると考えたためである。描き表すものは、生徒の仮定となる思考の結果であるが、情景を具現化することで他者との共有が可能になると考えた。

また、他者の考える景色との違いや共有化していく中で、なぜ余白＝間が必要であったかについて自分が描き表したような情景を作者は考え、余白をわざと設定したのではないかといった考えを促すための一助になるであろうと考える。

### 3 小中連携による研究とのかかわり

#### 4 評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞
ア鑑賞作品の形や色彩などに関心をもち、主体的にそのよさや美しさ、生活の中の美術の働きなどを感じ取ろうとしている。			ア鑑賞作品から日本の暮らし中心に発展してきた美術文化を感じ取り、自然との共生などの視点から生活を美しく豊にする美術の働きについて理解している。 イ日本の美術の概括的な変遷や作品の特質などを捉え、日本の美術や伝統と文化のよさなどを味わい理解している。

#### 5 題材指導計画（2時間）

	学習事項	主な学習活動・手立て	評価			
			関	発	創	鑑
1	鑑賞作品の形や色彩から、作者が表現しようとしたことを感じ取る。	○釧路市立美術館所蔵作品の久本春雄の「初夏」「桃花」を鑑賞する。【 A 】 ・形や色彩を中心として、作品に描かれている内容を読み取っていく。【対話型】	ア			ア
2	掛け軸の形態と日本の暮らしの関係性について学ぶ  日本美術の多くに用いられた余白の意味について考える。	・掛け軸の形態に着目し、日本の暮らしの中で発展してきた日本美術について考える。 ○余白に着目し、生活の中に息づいていた美術作品の目的について考える。 ・西洋の作品にはない、余白＝間に着目し効果について考える。 ・日本美術の作品に多く用いられている余白の意味について考える。 ・余白の部分にどのような景色が広がっていくか想起して描く。【 B 】				
	日本美術と暮らしの関係性について学ぶ。	○鑑賞した作品から、日本の暮らしの中に息づいてきた美術の存在について学習を深めていく。				

#### 6 本時案

##### （1）本時の目標

鑑賞作品の形や色彩、形態などから、日本の美術の特徴である四季を感じる表現や省略、携帯性について学ぶ。また、鑑賞者の役割について考え、日本美術は暮らしと結びつき、人々の暮らしを豊かにしてきたことに気づき、自らの考えをまとめることができる。

##### （2）本時の展開 1・2時間目（○…発問,△…補助発問,□…指示,説明）

主な学習活動（下位目標）	教師の働きかけ・手立て	【評価方法】・備考
<p>1 掛軸についての知っていることや自分達の知っている絵画との違いについて考え、述べることができる。</p> <p>2 作品の形や色彩を基に読み取れることを交流しながら、作品の理解を深め、ワークシートにまとめることができる。</p> <div data-bbox="153 674 525 797" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【生徒の予想される考え】 ◆鳥・・・るりびたき、雀 植物・・・桃の花、</p> </div> <div data-bbox="153 1032 525 1458" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【生徒の予想される考え】 季節が違うのではないか 作者の感情</p> <p>形態・・・細長い、巻き取れる</p> <p>描かれているものが下に寄っている。何も書かれていないところがある。</p> </div> <p>3 西洋の作品と比較して構図</p>	<p>○掛軸はどんな所に飾られているものか知っていますか。</p> <p>○よく見かける一般的な掛け軸から、普段皆さんが描く絵と異なるところを探してみよう。</p> <p>□この作品は、釧路出身の久本春雄が描いた作品です。【 A 】</p> <p>○この2つの作品を観て感じたことをまとめてみましょう。</p> <p>○この2つ作品には何が描かれていますか。</p> <div data-bbox="564 685 1145 965" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【作品を読み解くための視点】 (1)対象 (2)色 (3)構図 【具体的な対象や色から読み取れること】 ・描かれている対象の違いから季節 ・植物と動物から道東の地域 ・構図が下の方に寄っていることから鑑賞者の視点 ・色彩の淡さから画材</p> </div> <p>○色彩の違いはありますか。 △2つの作品の色彩や描かれているモチーフの違いから言えることは何だろうか。</p> <p>○描かれている形態で気付くことはありますか。</p> <p>△みなさんの使っている絵の具の様子と違うことはどんな所でしょうか。</p> <p>○構図で気になることはあるだろうか。</p> <p>○日本の暮らしの中で、掛軸が大切にされてきた理由を考えてみよう。</p> <p>□掛軸は江戸後期から明治、大正にかけて掛け軸は発展し、今も楽しまれている作品の一つです。</p> <div data-bbox="592 1626 1126 1839" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【掛け軸のような形態の意味からわかること】 ・日本の狭い住居の中で大きな絵画を設置することは難しい。 ・季節ごとに掛け替えていた。 ・仕切りとして存在していた屏風も畳むとコンパクトになる。</p> </div> <p>△あなただったら、冬にどんな掛軸を飾りたいですか。</p> <p>○西洋の作品と比較して、構図の違いについて考</p>	<p>【観察】</p> <p>【観察／作品】</p> <p>【観察／作品】</p> <p>【発言・ワークシート】 コンスタブルの風景画</p>

における特徴を見つけワークシートにまとめることができる。

【生徒の予想される考え】

- ・日本の方がクローズアップされている
- ・背景がない。

えてみよう。

【比較する作品】

- コンスタブルの風景画
- 近景・中景・遠景まで
- 細部まで描き込まれた
- 作品とする



□西洋の描き方のように、掛け軸を表し掛軸の構図にしていくと次の様になります。

なぜ、作者は何も描かないところを作ったのだろう

4 構図の上部に位置する余白の意味について考えワークシートに記入することができる。

○なぜ、作者は何も描かないところを作ったと思いますか？

△遠くには何も景色が見えなかったのだろうか。

【余白の意味について確認すべきこと】

- ・霧や霞といった日本の気候や風土によるもの
- ・借景

【その他で考えられる答え】

- ・作者の着目の場面として表現した・中国からの伝承のため・描きたくなかったから 等

5 余白の部分に、自分の思い描く景色を描き表すことができる。

□何も描かれていない余白に、あなたはどんな景色が見えるか想像して描いてみよう。B

△描かれたものの奥にはどのような景色が広がっているだろうか。

□お互いが描いた景色を交流してみよう。

それぞれが、違う景色を想像して楽しんで思っていたから。  
観る人が、自分で好きなように観て欲しいと思ったから。

○全てが描かれていたら、それぞれが思い描く景色を想像することはできただろうか。なぜ、作者は描かないところを作ったのだろう。

□余白は、掛け軸だけでなく日本の美術には多く取り入れていました。

6 日本美術の作品が、人々の暮らしに与えた影響を考えワークシートにまとめることができる。

○作品に多く取り入れられた余白や四季は人々の暮らしをどのようにしたいと、作者は考えていたのだろうか。

7 授業を振り返り、日本の美術と暮らしとの関わりについての考えをまとめてワークシートに記入することができる。

□今日の授業を振り返り、日本人の暮らしにおいて、掛軸をはじめ日本美術はどんな役割をもっていたのだろうか。

PPによる、全体→部分→背景の削除の様子を見る。

【ワークシート】

(実際に記入した例)

